



学校評価アンケートより



学校評価アンケート大変お世話になりました。先週アンケートの結果についてお知らせしておりますが、児童、保護者、職員共に評価が低かった項目について考えてみました。今後、全職員で学校評価の結果について、何ができていて課題は何か、どうすれば改善できるかということを検討していきます。

課題があった項目は「家庭学習」と「家庭読書」と「通信機器の管理」でした。「家庭学習の習慣がついている」、「家で読書をしている」、「パソコン、ゲーム機、音楽機器、スマホなどは、リビングだけで使い、夜9時～朝6時までには家の人に預けている」の割合が低く、全て3ポイントを下回っていました。毎年同じような傾向にあります。通信機器の管理については保護者の方と子どもたちの認識にずれがありました。

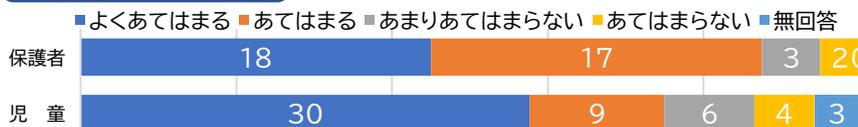
家庭学習・「家庭学習の習慣がついているか」



家庭読書・「家で読書をしているか」



通信機器の管理



家庭学習

まだまだやれると思います。どんな学習をやればいいのか、どのくらいの時間やればいいのか・・・担任によって宿題の質や量に差がないようにしているつもりですが、不十分です。小規模校だからこそできる、個に応じた宿題に転換していくことも考えていかなければなりません。やらされる学習から自ら学ぶ学習にするには、さらなる工夫が必要だと思います。「家庭学習の手引き」についても、子どもたちが活用しやすいものに改良していきたいと思っています。そして何よりも家庭と連携した取り組みが必要です。



家庭読書

通信機器の管理

ある研究所の調査で小学生の読書量が激減していることが分かりました。学年が上がるにつれ読書量が減少し、4～6年生の約3割は1ヶ月に一冊も読まないと回答しているそうです。一方自由に使える通信機調査で「ゲームをする」時間は1日平均45分、「動画の閲覧」時間は1日平均44分だったそうです。また、親が読書時間をたくさんもつ子どもは読書時間が多いとの結果もでているそうです。当たり前といったら当たり前のことかもしれませんが・・・ご家庭で、テレビを消して子どもは読書、大人はスマホをいじるのではなく、新聞を読んだり、読書をしたりする時間を少しでもとっていただけたらと思います。スマホの普及と読書離れが直接関係あるかどうかは分かりませんが、この機会に今一度、通信機器の使用時間の管理と読書の必要性について子どもさんと一緒に考えていただきたいと思います。

学校では本年度はコロナ禍で読み聞かせボランティアの方に来ていただくことができませんでした。来年度は「家族読書」や「全校一斉読書」「読み聞かせ」等を充実させ、本に親しませる環境をさらに作っていききたいと思います。

